

目次

課題1 「弾性床清掃作業（ドライバフ法）」

標準時間	4
使用資機材	4
作業工程	4
作業準備	6
会場入室前	6
会場入室後	8
作業手順	8
あいさつ	8
作業表示板設置	8
道具の準備	10
除塵作業	12
ポリッシャー（ドライバフ）作業	18
水拭き（モップ）作業	24
後片付け	26
作業終了挨拶	28

課題2 「ガラス面洗浄作業」

標準時間	32
使用資器材	32
作業工程	32
作業手順	34
あいさつ	34
作業表示板設置	34
洗剤の準備	34
ガラスを濡らす（外面）	36
スクイジー（縦引き・横引き）	38
縁の清掃	44
枠の水拭き	44
枠の乾拭き	46
床面の清掃	48
ガラスを濡らす（内面）	48
スクイジー操作（横作業）	50
スクイジー操作（縦作業）	52
縁の清掃	52
枠の水拭き	54
枠の乾拭き	56
床面の清掃	56
片付け（資器材の手入れ）	58
作業終了挨拶	58

課題3 「トイレ日常清掃作業」

標準時間	62
使用資器材	62
作業準備	64
会場入室前	64
会場入室後	64
作業工程	64
作業手順	64
あいさつ	64
作業表示板設置	66
ノズル洗浄	66
便器洗浄	68
洗剤拭き・水拭き	72
清拭	74
片付け	76
作業終了挨拶	76

弾性床清掃作業（ドライバフ法）＜作業動線図＞	78
ガラス面洗浄作業＜作業動線図＞	79
ガラスの床面拭き作業手順＜作業動線図＞	80

作業のポイント

ポリッシャー（ドライバフ）作業（テキスト P21～26）

- **ポリッシャーを起こす**（テキスト P21）
ポリッシャーの車輪を足で押さえて起こす。

ポリッシャーの車輪に足を添える。

- **スタンドをたたむ**（テキスト P21）
ポリッシャーを立てたら、スタンドの両脇のボタンを指先で上から押し込み、反対の手はスタンドの先を持って、スタンドをたたむ。

スタンドは両手を使ってたたむ。

- **移動準備**（テキスト P21）
体をコードの反対側に移動させコードを3～4巻き取る。コードは体の左側に置く。左手でコードとハンドル、右手でハンドルを持ち車輪を足で押さえ、体の方にポリッシャーを倒す。この時、体を2歩程度後ろに下げると倒しやすい。

車輪に足を添えてポリッシャーを傾ける。



- **バフ作業準備**（テキスト P22）
ポリッシャーを前進作業でコート内に入れる。机の前に巻いたコードを置き、ポリッシャー近くのコードを左手で持つ。

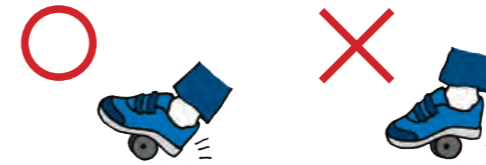
コート入口左側（机の前）にコードを置く。

コート内でポリッシャーの向きを変えて、スタート位置に置く。
置くときには車輪を足で押さえる。

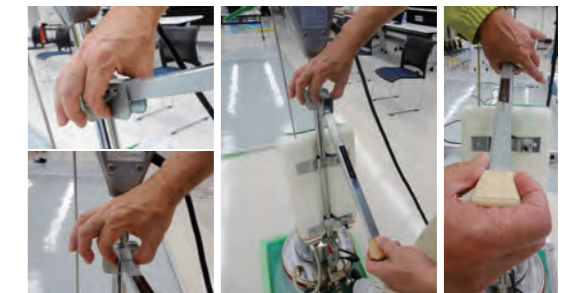
コート入口右側の幅木沿いにポリッシャーの向きを変えて置く。

指導のポイント

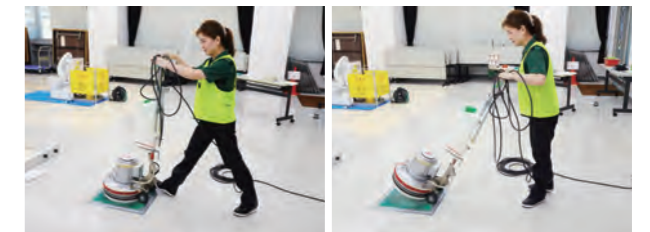
○足で押さえずに倒すと重みでポリッシャーを倒してしまう恐れがあるため、気をつける。



- 起こすときにポリッシャーが動かないようにする。
- スタンドをたたむ際、手のひらを挟まないよう必ず上から持つ。
- 立てる時と同様に、両脇についているボタンを手の平で被せて押し込むとスタンドに手を挟み怪我をするリスクがある。



- 移動の際に、足で押さえずに倒すと重みでポリッシャーを倒してしまう恐れがあるため、気をつける。
- ポリッシャーを移動させる時は、必ずポリッシャーの車輪に片足を当てて、本体を動かさないようにすることが、事故を未然に防ぐ安全作業に繋がる。



- コードを踏まない・蹴らない・またがないを遵守するには左手でコードをさばく必要があるため、コードの位置に注意する。
- コードを踏んだり蹴飛ばしたりして作業することは、お客様から見た場合でも「安心」できる作業風景ではない。



- この段階で、開始位置を確保・決定する。
- 大きく回るとスタート位置に移動しやすい。



作業のポイント

白タオルでウインドスクイジーのゴム刃を下から上に拭く。

ウインドスクイジーは使う前にも拭く。

ウインドスクイジーを左上の隅に当てる。

スクイジーの左側を指3本分下げる。

ウインドスクイジーを斜めにしたまま、下に引き下ろす。一番下まで引かず、15cm位上で止める。
この時、腕だけでなく膝も使ってしゃがむように作業する。

下半身を使って屈伸運動をするようなイメージで行う。
この作業を「縦引き」と言うので覚えておく。目線の高さで作業する。

立ち上がって白タオルでウインドスクイジーのゴム刃を拭く。

スクイジーの拭き方は、左側を下にしたまま下から上に向かって拭く。

隣の列を「縦引き」するときには、前の列と指2本分（2～3cm）は重なるように意識する。
前の列の重なりを確認して、ガラスの一番上の枠にウインドスクイジーを当てたら、左側を指3本分下げて、引き下ろす。
これを合計6回でできるように練習する。

スクイジーは傾けたまま引き下ろす。

スネーク技法は使わない。

シャンパーではスネーク技法を使用するが、スクイジーでは使わない。

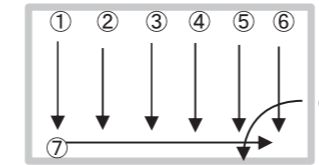
指導のポイント

○忘れがちな部分なので気をつける。

○ゴム刃にほこり等が付着したまま使用すると、ガラス面に汚水が残ってしまう場合があるので、注意する。

○スクイジーは斜めの状態にする。

○清掃を終えたきれいな面への汚水が流れこみを防ぎ、進行方向に汚れを掻き出していくことを意識する。



○作業姿勢、作業技法を覚える。

○スクイジーは目線の高さのまま屈伸する。屈伸をしないでスクイジーを下げると角度が変わり汚水が残ってしまうので、注意する。肘を伸ばしてガラス面から体を離れた方が作業がしやすくなる。

○「横引き」は、膝の使い方が重要なため、繰り返し練習して身につけておく。

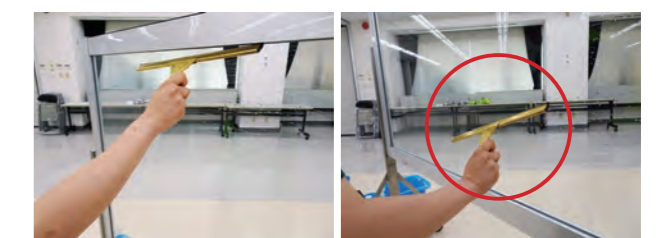


○床面に汚水を垂らさないために、下から上に拭く。

○スクイジーを回すと汚水がはねてガラスに飛び散ってしまうため、注意する。



○スクイジーは多少寝かせ気味の方が汚水を除去することができる。立てすぎると汚水が残ったり音が鳴るので注意する。



○3級におけるスクイジー操作においてスネーク技法は採用していないので、必ず気をつける。

